

事例36 後期高齢者 入院外(一般所得)・公費(特定疾患)

後期

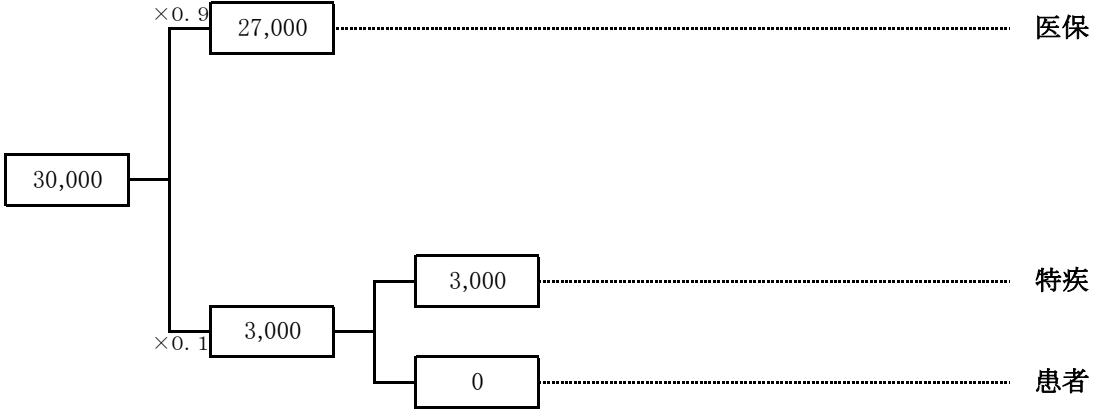
訪問看護療養費明細書										6 訪問	3 後期	3 3 併	8 高齢一	
-										保険者番号	3	9		
公費負担番号①	5	1						公費負担医療の支給者番号①						
公費負担番号②	8	0						公費負担医療の支給者番号②						
氏名								特記	18 一般					
職務上の事由								←51公費の適用所得区分を記載する						
合計	保険	請求 円		※ 決定 円		負担金額 円		※高額療養費 円						
	公費①	30,000								※公費負担金額 円 備考				
	公費②	30,000				0				※公費負担金額 円				

※ 高額療養費が発生しない場合 →高額療養費が発生していないので、「保険」の「負担金額」欄は空欄

[療養の給付]

→「公費①」の51(特定疾患)の「請求」欄は、この事例では51対象部分(3,000)で分点が生じていないので、空欄、「負担金額」欄は当該患者に係る月額限度額または、公費対象医療費の1割のいずれか低い額を記載

→「公費②」の単県80の「請求」欄は、「保険」の「請求」欄と同一内容を、「負担金額」欄は、患者の最終負担額を記載

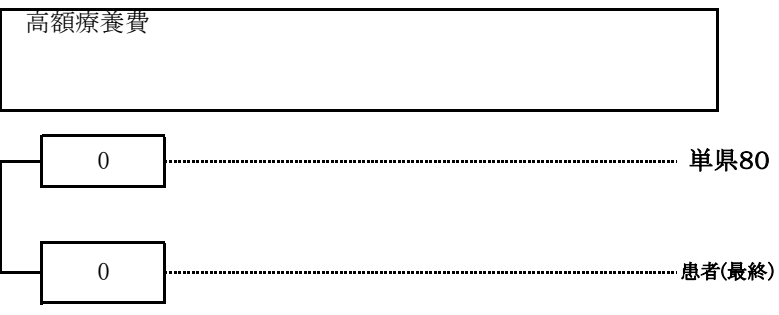


〈保険〉後期高齢者医療被保険者証 定率1割

〈公費①〉特定疾患(所得区分:一般) 月額自己負担限度額=0円

〈公費②〉単県80 定率1割 一般(一部負担上限額 12,000円)

合計	
医保	27,000 円
(高額再掲	0 円)
特定疾患	3,000 円
患者	0 円
単県80	0 円
患者(最終)	0 円



→単県80の上限額が12,000円(一般)の為、単県80の給付なし (ただし、単県80の受給者証の提示があった場合、レセプトに記載)